

令和2年10月28日

(追加資料) 「解放者イエス像」

(三好迪「夜空に歩むイエス」参照)

ナザレに始まるアフエシス (aphesis) を宣べ伝える旅

イエスの説教 (ルカ 4.18-19) は、彼の全活動をパノラマ的に表わすイザヤ文をたくみに綴り合わせている。それはまずイザヤ 61.1 で始まり、次にイザヤ 56.6 を引用して、61.2 に戻る。

なぜなら、イエスの全活動が、人々に解放 (アフエシス aphasis) と自由 (アフエシス aphasis) を与えることを目指しているからである。

しかし、イエスはだれに対して aphasis を宣べ伝えるのか。ナザレの説教においては、それは囚人と打ちひしがれている人々に、さらに貧しい人々への福音によって、盲人の目を開くことによって、示される。

神の支配を具体化する旅

「神の国」は空間概念ではなく、神の愛といつくしみの支配を表わす。この神の支配は、悪霊追放やシモンの^{しゅうとめ} 姑の熱病癒しなど (同上 4.31-41 参照) によって具体化する。

つまり、悪霊を追い出し病人の癒しは、今日も明日も継続される旅として表され (同上 13.32-33 参照)、「三日目に成し遂げられる」ことは、イエスの旅の目的地エルサレムで死を遂げ、復活—昇天することを表わす。

十字架—復活の aphasis

Aphasis を宣べるナザレの説教は、ルカにおいては、イエスのデビューである。だから、イエスの生涯の最後、受難死の際に aphasis が宣べられるはずである。この最後の aphasis は、罪人への赦しとして表される。

諸国民への aphasis

最終的な aphasis は、当然、ユダヤ民族のみに限定されない (同上 24.47 参照)。